

乱世の組織のあり方

ドイツの組織論より学ぶ

―竹内日祥上人の講演より―



高井法博会計事務所

所長 高井法博

私はここ三年程、月に一度東京や大阪に出掛け日蓮宗の大荒行を体験された竹内日祥上人のもとで、経営人間学講座というセミナーを受講している。宗教家の話となると抹茶臭いと思われる方が多いかもしれない。実は私自身が浄土宗のお寺の二男坊であり、小さい時から和尚さんの話を聞く機会は多かった。その多くは、精神論・情緒論・常識的道徳論・人格論・思索論であった。これはこれでとても重要で、自分の人格形成にはとても役立ったと思っている。しかし、この自由主義経済の世界に身を置き、自らもいくつかの競争を経験し、また数多くの会社に関与させていた

だきその盛衰を見るにつけ疑問を感じるようになった。バブル時代の平穩時で誰でもがどの企業もがほどの利益が出せる時はこのような考え方のみでよかったかもしれない。ところが、現在のように時代の大変革期・乱世の時代には、とてもこのような考え方のみでは企業を存続させることはできない。

このセミナーでは、竹内上人が古今東西に伝わる史書をもとに明解な解説を加えておられる。具体的には、『孫子』『史記』『論語』『言志四録』『貞観政要』『菜根譚』『法華経』『観心本尊抄』『正法眼蔵随聞記』『南州翁遺訓』等をもとに、日蓮宗のお上人ではあるが特定の宗教色、片寄った思想・信条やイデオロギー的色彩はなく、まさに明快な論理で縦横に乱世の今求められている人間集団を統率するための原理原則、その応用と展開の技を教えて下さっている。

私もこのような本には興味があり買ってはくることが、難解なことと日常の業務に忙殺され数頁を読んだところで放置してしまっているのが常である。このようなセミナーは、人生の課題が一つ一つ解決されるよう実在にありがたい。

最近、上人から聞いた組織論について少し記してみたいと思う。

一、組織論……組織には二つある。

ドイツの組織論には、『ゲマインシャフト』と『ゲゼルシャフト』の二通りがある。

『ゲマインシャフト』とは、家族や民族・趣味の会や地域の会に向く考え方で、その中心は観念論で精神的・人格的・情緒的・互恵的な内容で常識的道徳的できれい事しか言わず、人間の心をちょっとその気にはさせるが決して高い思想とは言えない。一方、『ゲゼルシャフト』は、軍隊や企業に適する考え方で

中味は行動論で合理的・打算的・利害的・功利的で集団を統合させる組織論であり高い思想である。これは目的実現の思想であり変革のための思想である。企業はゲゼルシャフトでないと成長持続しない。

激動の今日、企業ではすべての社員構成員の方々に経営者と変わらない思想(志操)の高さと深さが求められる時代となっている。しかし、驚くべきは経営者も幹部も思想の何たるやを知らず経営の陣頭に立つ愚を犯している。目的完遂のためには、大きなリスクや障害を負うことも多い。そんな時、色々な個性ある集団の構成員に方針を決定し命令し変革を要請して行かねばならない。命令を受けるのは楽だが、全責任を担って命令決

定していく程辛いことはない。各々の個性を大事にしそれを生かしながら一つの目標、目的のために力を結集させねばならない。そのため、経営者や幹部は思想を高めなければならぬ。思想の高い人が中心にいると自分の価値観と違う人を納得させ引張ることができる。出逢った人の価値観が自分より高ければ自らをそれによって変えて行くことができる。

『ゲゼルシャフトの中にいない限り人間は成長しない。』厳しいことを体験し、厳しい道を進んで初めて成長する。競争の世界から決して逃げてはいけない。競争があるから人間は成長する。

『仕事を通じてしか人間は成長しない。』仕事をどう自分の中で位置づけるかによって違いが生じてくる。

LABOR(労働) どれい 生活のための労働の対価として捕えている程度の低い思想ではなく、WORK 会社の仕事を自分の仕事と思えない限り仕事が楽しくならない。自分の成長のために、この仕事が必要であり他に変えがたいものであり、仕事を通して色々体験して生きる喜びを感じるようにならねばならない。

ゲゼルシャフトという組織の中には入りたいたいという人以外は入れてはいけない。その思想価値観が相容れない者、望まない者はいくら記憶力に秀でていても入れることにより他の者まで不幸にする。出口は空けておくべきである。

高い思想・価値観を経営計画書に明記し、それに向かって周囲の状況や障害・批判に惑わされず強固な決意を持って成しとげたいけば千人位の組織は作り守ることができる。べておられる。

竹内上人には、以前TACT経営研究会や幹部セミナーで講師として来ていただいたが、事情さえ許したら年に一度は定例会としてセミナーを開催したいと思う。上人は、『人は出逢いによって変わる』と言われるが、私自身も上人との出逢いにより、新しい世界が開けたような気がする。